

東まつしま シルバーバタより

第13号

平成24年1月11日発行

発行所 (社) 東松島市シルバー人材センター編集委員会
宮城県東松島市小野字新宮前5番地
TEL 0225(86)1097 FAX 0225(86)1277



野蒜海岸から臨む初日の出（陽はまた昇る）

撮影 菅原俊吉会員

新しい年を迎える
本年もよろしく
お願ひ申し上げます

平成二十四年元旦



理事長	齊藤壽朗
副理事長	成澤隆
常務理事	奥田俊郎
理事	丹野美代子
監事	斎藤俊夫
監理	菊地良大
監理	久義子
監理	大浦麗子
監理	三浦正義
監理	伊藤隆宏
監理	佐々木義美

謹賀新年

新年のごあいさつ



理事長 齋藤 壽朗

ンター存続の危機とも言いかねない事態となりました。が、役職員、会員が一丸となつて業務を行つてきた結果、七月頃から受託も増え

月日の流れは早く、昨年

三月十一日に発生した東日本大震災から、年も改まり、十か月が経過いたしました。

会員の皆様におかれましては、お健やかに初春をお迎えのことと心からお慶び申しあげます。

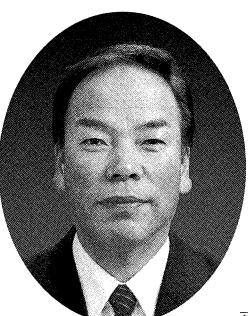
さて、東日本大震災により、東松島市は甚大な被害を受け、当シルバー人材センターにおいても十八名の会員の皆様の尊い命が失わ

失った高年齢者の方々も多く、加入促進を積極的に行ってまいりましたが、仮設住宅入居者十七名を含め、五十六名の方が新たに入会されました。震災で被災し悲観している高年齢者の方々に就業の場を提供し、元気を回復していただき、喜んでいたいたことは、東松島市の復興に、わずかでは不必要な生活を余儀なくされております。

震災後の四月、五月と業務が激減し、前年の半分にも満たない状況が続き、セ

らざれ、復旧・復興には長い年月がかかるものと思われます。このよう中、健康で働く意欲のある高年齢者が「社会の担い手」として活躍することが益々求められております。当シルバー人材センターとしては「就業の確保」、「生きがいの充実」、「社会参加の推進」を目指し、会員の知識、経験、技能等を生かしながら、こ

新年のご挨拶



東松島市長 阿部秀保

これまで以上に積極的に施策を開拓し、特に本年は公益社団法人の認定を受け、四月からはより公益性の高い団体として地域の復旧・復興に一定の役割を果たしてまいりたいと考えております。

そのためにも、地域住民の方々から、より一層の支

持を得るために魅力あるシルバー事業を開拓していく

業を育て、働く場をつくる「まち」を目指し、全力で復興のまちづくりに取り組んでまいります。

東松島市の高齢化率は二〇〇〇世帯が住宅の流失等半壊以上の損害を受けました。このような中、市では大震災の経験と教訓を生かし、将来にわたって持続可能な安心で安全なまちづくりを実現していくため、今後十年を計画期間とする「東松島市復興まちづくり計画」を策定し、復興への歩みを始めました。「東松島一心」をスローガンに掲げ、まちの将来像「災害に強く安全なまち」「安心して笑顔で暮らせるまちづくり」「産

ことが最重要課題となりますが、これらに携わる役職員を始め、会員の皆様方も、シルバー人材センター事業の原点に返り、「自主・自立・共働・共助」の基本理念を再認識するとともに、就業機会の開拓に努め、発注者からも信頼されるシルバー人材センターを目指して努めて参りたいと考えております。

シルバー人材センター事業の原点に返り、「自主・自立・共働・共助」の基本理念を再認識するとともに、就業機会の開拓に努め、発

注者からも信頼されるシルバー人材センターを目指して努めて参りたいと考えております。

今年の大震災で当市も甚

い生命を失い、市内全世帯

多幸を心からお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

新年を迎えて

安全・適正就業委員長



明けましておめでとうございます。清々しい新年を迎えられ昨年に増して、皆様を初めご家族の健康を御祈願なされたことと思いま

す。昨年三月十一日の東日本大震災により、十八名の会員の方々が痛ましくも犠牲となられました。心から哀悼を申し上げます。又、沢山の会員の皆様が被災され、これまで経験したことない災害を被りました。断腸の念に堪えません。心よりお見舞い申し上げます。

さて、本年における安全・適正就業委員会では、次の安全就業推進計画を樹立致しました。

- 一、安全管理体制の確立。
- 二、事故防止対策の推進。
- 三、健康管理の推進。

項目です。当委員会では、次の三点を目標に掲げ強力に推進することに致しました。

ア、就業場所の巡回指導。

イ、安全保護具の点検整備。

ウ、使用機材等の点検整備。

です。昨年は六月から十月まで十三回、各班長さん方

により、事故防止の観点から現場のパトロールを実施していました。誠に有難うございました。この巡回指導は例年実施したい

所存ですが、安全保護具の着用と、使用機材等の確実な始業点検整備の実施等自己管理をよろしくお願ひします。

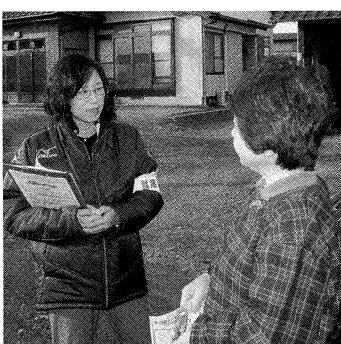
前委員長の故菊地幸夫さんが、私と会うたびに口癖のように話されておりました言葉に「安全と事故は紙一重である」と力説されておりました。この言葉を常に胸中におき、安全で安心な作業に従事することと共に、シルバーのパワーは微

積極的に仮設住宅を訪問し、震災で悲觀している高年齢者に就業の場を提供し、元気を回復していただき、喜んでいただきました。また、就業開拓員の二人は、はじめのうちは震災の影響もあり、業務の受託が思うように行かず、独自のパンフレットを作成する等、工夫と努力により徐々に成果を上げてきました。

東日本大震災により、多くの会員が亡くなり、退会される会員も後を絶たず、更に業務も激減し、当センターの存続の危機とも言えかねない事態を乗り越える

力かも知れませんが、復興が一日でも早く成し遂げられ、その一助になればと考えております。何はさておき、健康でなければ何をやつても心は満たされません。

本年も健康に留意し張り合いのある毎日を過ごしていくではありませんか。『会員が就業無事故で一年』を新年にあたりましての合言葉としまして結びといたします。



就業開拓員の活動と成果

昨年の四月十一日から東松島市からの委託事業として、就業開拓員二名を雇用し、市内の事業所、各家庭を戸別訪問し、就業の開拓と会員の募集を行ってきました。東日本大震災発生後一ヶ月、市内は依然として震災の傷跡が大きく残り、住民への影響も計り知れず、最悪の環境の中、就業開拓員は業務を開始しました。

特に仮設住宅が完成後は、



響で退会する会員が多くいる中、新規会員の加入促進に大きな成果を上げ、会員の激減を防止することができました。

会員が一丸となつて取り組んできたことはもとより、就業開拓員の地道な活動によるところが大きいものと思つております。

これが、就業開拓員の活動と成果です。

哀悼の言葉

昨年三月十一日に発生いたしました「東日本大震災」で犠牲になられました会員の皆様並びにその御家族に對しまして、心から哀悼の意を表します。

残された数々の教訓を生かし、事業の健全な運営を通じ、地域社会の発展に寄与していくことだと思つております。

計報

東日本大震災で被災し、十八名の会員がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

責任のある組織として多くの方達の信頼を得て、限り無い発展を期し、努力することをお誓い申し上げ、ここに皆様の御靈の永久に安らからんことを念じ、哀悼の言葉といたします。

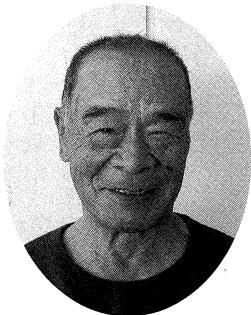
▼新入会員の紹介

(敬称略)

平成二十三年五月	千田 裕	立沼道地
菊地 勝昭	大	塙
安藤 徹	貝田筒場	
内海 君雄	浅井中下	
高橋 正八	大	溜
木村 豊	塙	
黒田 竹治	大	
渥美 啓子	北赤	
奥田 賴子	井	
菊地 幸子	塙	
石川 武志	大	
矢本ちや子	大	
土井 利三	塙	
菅野 周一	北赤	
布藤 正和	小	
清水 安雄	松	
佐藤 勝	下町	
佐々木勝子	大曲	
阿部喜美子	浜	
斎藤 昭治	北赤	
斎藤テツ子	井	
土井 良子	北赤	
貝田筒場		
蛇石喜美子		

平成二十三年八月	木村 清勝	下町	千田 節子	立沼道地
高野 宗延	下町	一	土井 丈夫	下町
齋藤 恒子	東	名	櫻井かね子	東
三浦 直子	下町	二	上納横沼	
高階千恵子	津田 正志	下町	南赤井 一	
寺田 愛子	下町	三	武沢 典幸	
二宮ヒデ子	東	名	寺田	
石井 昭吾	下町	一	高階千恵子	
尾形 俊文	龟岡洲崎		三浦 直子	
三上 栄喜	上河戸		高階千恵子	
桜井 順一	立沼道地		寺田 愛子	
嶋田 和義	小野 一		二宮ヒデ子	
相澤 正樹	下町	二	二宮ヒデ子	
戸村 實	下町	一	石井 昭吾	
佐々木武哉	新町	一	尾形 俊文	
佐藤たむ子	下町	二	三上 栄喜	
内海 律子	小野 二		桜井 順一	
葛西レイコ	大曲浜		嶋田 和義	
遠藤 秀子	大曲浜		相澤 正樹	
佐藤 俊晴	上納横沼		戸村 實	
亀山	南赤井 二		佐々木武哉	
阿部 和子	南赤井 一		佐藤たむ子	
大曲浜	下町	二	内海 律子	
	下町	二	葛西レイコ	
	二		遠藤 秀子	
			佐藤 俊晴	
			亀山	
			阿部 和子	

高橋	相澤 晴枝	大曲浜	平成二十三年十二月
関野	勲	亀岡洲崎	
尾形	満義 上	町	
義久	南赤井二	町	
星	千葉 綾子 宮 戸		平成二十三年七月
力吉	大野はつ子 立沼道地		平成二十三年八月
下町	浅野 武 上納横沼		平成二十三年九月
二	村上ユリ子 上納横沼		
横山こはる	柿崎千代子 下町二		
横山こはる	尾形 つね 新町		
菅原初也	上納横沼		
高野吉治	相澤 重吉 上下		
土井勝彦	鈴木 久志 下町一		
山内由之	熱海 周雄 小野二		
櫻井吉治	渥美 啓子 堤		
大友なを子	佐々木静男 小野二		
櫻井勝彦	佐々木好広 南赤井一		
高野吉治	佐々木静男 下町二		
土井勝彦	佐々木好広 浅井中下		
山内由之	佐々木静男 下町二		
櫻井吉治	佐々木好広 南赤井一		
星	佐々木好広 南赤井一		
力吉	佐々木好広 南赤井一		
下町	佐々木好広 南赤井一		
二	佐々木好広 南赤井一		



東日本大震災の被災体験談

亀岡洲崎班 小野徹也

前を走行中、車が飛び跳ねるような衝撃に、あわてて娘が車を停めたが、しばらく大きな揺れが続いた。大地震が発生し、これは大変なことになつたと思い、家にいる妻が心配になり、

平成二十三年六月 午後二時四十六分、石巻に行くため、娘の車で小野駅

平成二十三年三月十一日 平成二十三年三月十一日

娘と自宅に引き返した。幸い妻はケガもなくほつと安心、その時はまだ大津波が来るとは思つてもいなかつた。娘は矢本の自宅に帰り、隣の山内さんからすぐ避難した方が良いと言われ、山内さんの車に妻と同乗し、避難場所の野蒜小学校に向かつた。

野蒜小学校に着いて、妻が校庭にあるトイレに入り、私も車から降りて、トイレの前で待つていた。妻がトイレから出てきた時、突然津波が襲ってきた。妻はなんとか山内さんの車に乗り込み、私はトイレのそばにあつた木にしがみついたが、あつという間に水かさが増し、腰を越えてきたので、木の上に登り難を逃れた。

妻の乗った山内さんの車が流されたが、どうすることもできず、三時間ほど木にしがみついていた。雪が降り周りは暗くなり、ブルブル震えるような寒さから、恐る恐る木から下りると、胸まで浸かつたが足が着い

たので、野蒜小学校の校舎に避難し、助かつたとの思い、妻の安否が分からず

幸い家族、親戚が全員助かったとのことで、辛かつたことも吹き飛ばしてくれた。

事業実施報告

(平成23年4月～平成23年11月末累計)
 () 内は前年対比
 会員数 260名 (96%)
 受託件数 1,173件 (68%)
 契約金額 5,958万円 (76%)
 就業延人員 13,391人 (65%)
 就業率 83.5% (88%)

北赤井班
 斎藤一彦様
 (平成二十三年十月十一日逝去)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

計報

心配で、寒くて辛い一夜を過ごした。

次の日、妻と山内さんの行方を捜すため、住民が避難していると聞いた定林寺、中下集会所、浅井集会所を歩いて回つたが、見つける事はできなかつた。心配で

眠れぬ一夜を過ごした翌三日の昼ごろ、川下公民館にいたという妻と再会し、お互いの無事を喜びあつた。

数日経つてから、野蒜小学校が危険とのことで、鳴瀬一中に移動し、二十日位過ごし、石巻にいる息子が迎えに来たので、息子の家に行つたが、被災した息子の嫁の家族も避難してきており、総勢十八名での生活

は厳しく、二日後仙台の娘在はひびき工業団地の仮設住宅で暮らしている。

震災で被災したこと、その後の転々とした生活は、二度と体験したくないが、

幸い家族、親戚が全員助かったとのことで、辛かつたことも吹き飛ばしてくれた。

新会員へのインタビュー

平成二十三年四月～十二月まで五十六名の方が新たに入会されました。その中から代表して四名の方にインタビューしておりますので紹介いたします。

なお、インタビューは、あらかじめ六項目の質問を設けて行っています。

質問内容

- ①入会前の生活は？
- ②三月十一日、地震発生時は何をしていたか？
- ③入会のきっかけは？
- ④就業してみてどうか？
- ⑤入会後の生活に変化は？
- ⑥今後の抱負は？

○奥田 順子さん



大塩班(5月入会)

- ①赤井の料亭で調理、仕出しの仕事をしていたが、勤



北赤井班(6月入会)

○菅野 周一さん



東名班(7月入会)

○斎藤 恒子さん

- ①三月十一日以前は、配達仕事をしていて、暇なく働

- ①震災前は、自営で力の仕事をしていて、暇なく働いていたので、暇なく働いていた。
- ②今まで、外に出で働きに行くことがなかつたので、今は、知らない人達と仲良く出来て楽しい。
- ③今まで、外に出で働きに行くことがなかつたので、今は、知らない人達と仲良く出来て楽しい。
- ④震災前は、自営で力の仕事をしていて、暇なく働いていたので、暇なく働いていた。
- ⑤今まで、外に出で働きに行くことがなかつたので、今は、知らない人達と仲良く出来て楽しい。
- ⑥今後も楽しみながら仕事をして行きたい。

- ⑥健康を維持してシルバーで長く働いて行きたい。

め先の事情で十月に辞めて、アルバイトをしていた。

②仙台でお墓掃除のアルバイトをしていた。海から離れており、津波は大丈夫だつたが、墓石やブロックが倒れてきて驚いた。帰つてくるのに四時間かかった。

関係の仕事をしていたが、津波で会社が被災し解雇された。震災の影響で二ヶ月間歩くのが困難だった。

②会社にいた時に地震が起きた。責任者のため会社内の被害状況を確認していた所で津波がきて流された。

幸い従業員に助けられ、屋根の上に登ることができ、そこで一日半過ごした。

③就業開拓員が来て入会説明会の案内をされ参加して見た。近所の方が会員になつており、色々話を聞いて入会しようと思つた。

④最初の二ヶ月位は慣れるまで足が痛かつた。今はすつかり慣れました。

⑤体の調子は良くなつた。

⑥年相応に健康に気を付け、仕事をこなして行きたい。

○佐々木武哉さん



下町二班(10月入会)

②地震の時は、津波が来ると思っていなかつたので、避難しないで家に居た。津波が来たので二階に上がり波を見ていたが、がれきや流木がぶつかり凄い音だつた。今でも忘れられない：だめだと思った。家の一階は何も無くなり、周りの古い家は流された。

③就業開拓員に入会を勧められて入会した。

①平成二十二年十二月まで、NTTの電気工事をしていた。少しゆつくりして今後の仕事を考えようと思つていたら、地震、津波が来た。

②石巻市浦屋敷の親戚の家で留守番をしてた時に地震が起きた。車で自宅に向かつた所、途中で津波に三回遭遭遇して自宅に行けず、マツクスバリューで娘とおち合ひ、大塩の娘の家に行つた。自宅は被災し解体した。

③チラシを見て、身体を動かしたかつたので入会した。

④JAの米だしで、三十キロの米袋を運んだりしたが、どこも痛くならなかつた。

⑤働いてご飯を食べるのが力仕事は苦にならない。

⑥働いてご飯を食べるのが良い。メリハリのある生活を送つていて。

⑥健康を維持してシルバーで長く働いて行きたい。

公益社団法人 認定のメリット

第13号 東まつしまシルバーだより

公益社団法人の認定を受けた場合のメリットは、公益認定を受けていない法人と明確に区分され、社会的信用が得られ、公益活動や広報活動がしやすくなることです。また、寄付金控除の優遇措置が該当し、当センターに寄附をした場合には、特定寄付金（いわゆる公共性ないし公益性のある寄付金）として扱われ、「寄付金控除」として所得から控除が認められます。つまり、寄付者にも税制優遇があることから寄付金が集めやすくなります。さらに、公益目的から得られた収益は非課税となり、現在の当センターのように公益目的事業のみ行っている法人は、基本的には法人税がかからないことになります。

これらのことから、当センターは、平成二十四年四月一日付での公益社団法人の移行登記に向けて、現在認定手続きの作業を進めております。

事務局からのお知らせ

「年金現況届」等の記入及びそれ以外の様々な書類等への記入上の注意

ていただきますようお願いいたします。詳しくは事務局までご相談ください。

理事会の報告

「年金現況届」等の記入及びそれ以外の様々な書類等への記入上の注意皆様が毎年提出している年金等の現況届等の中に「職業」という欄がありますが決して「東松島市シルバー人材センター」もしくは就業先の会社名を記入しないでください。又それ以外の様々な書類等も同様です。

皆様は、雇用によってシルバー人材センターに雇われたのではありません。自分自身の意思により入会、会員登録し臨時の・短期的な就業をしているのですから、その様な職業欄に記載するときは「無職」となります。記入を間違えますと、社会保険事務所から事務局に対し様々な指摘を受けるばかりか、各関係機関にご迷惑がかかります。注意し

て
出張理容サービス業務について
第五号議案

配分金規約の一部改正について

第六号議案

「シルバーの日」の取り組みについて

第七号議案

新入会員の承認並びに退会員の報告

第八号議案

東日本大震災災害義援金の配分について

第九号議案

公益社団法人東松島市シルバー人材センター定款（案）の変更について

第一号議案

二十三年七月事業実施状況について

第二号議案

新入会員の承認
新入会員 七名

第三次中期計画について

▼第六回理事会

（九月十四日）

第一号議案

二十三年八月事業実施状況について

第二号議案

新入会員の承認並びに退会員の報告

新入会員 五名

退会会員 四名

第三号議案

墓石磨き清掃業務について

▼第八回理事会
(十一月十六日)

第一号議案

二十三年十月事業実施状況について

第二号議案

新入会員の承認並びに退会員の報告

第三号議案

退会会員 四名

第四号議案

二十三年十一月事業実施状況について

第五号議案

地域班の統廃合(暫定)の変更について

第六号議案

新入会員の承認
新入会員 二名

▼第七回理事会

（十月十二日）

第一号議案

二十三年九月事業実施状況について

第二号議案

新入会員の承認並びに退会員の報告

新入会員 四名

退会会員 六名

第三号議案

地域班の統廃合(暫定)について



